

P1-025

テレビを見続けやすい子ども－8ヶ月時および1歳6ヶ月時の縦断研究より

谷村 雅子¹、大熊 加奈子²

¹関東学院大学 人間環境研究所

²日本女子大学 人間社会学部 心理学科

【目的】

2歳未満児のテレビ・ビデオ・DVD(以下、TV)の長時間視聴と言語・社会性の遅れとの関連の可能性が小児科医や発達専門家から指摘され、1歳半児の集団調査で確認したが、その因果関係は明らかでない。長時間視聴の発達への影響を検討するため、家庭でTVがついている時の行動をビデオ記録し、視聴習慣と発達との関係を縦断的に把握することにした。乳児期早期からのTVの付けっ放しと言語発達の遅れとの関連が示唆されている(本学会2016年)。今回は見続けやすい子どもについて検討した。

【方法】

8ヶ月の健常児22名を対象とし、普段TVを見る部屋で、児がよく見る番組やビデオソフトを8ヶ月時に20分、1歳6ヶ月時に2時間再生し、児と同室者の様子をTVの近くに設置した固定カメラで自動撮影することを保護者に依頼した。ビデオ記録から対象児と同室者の行動を秒単位で書き起こし、両月齢時の視聴行動(注視、反応行動、コミュニケーション等)を解析した。本研究について大学の倫理委員会で承認を得ている。

【結果および考察】

1)両月齢間で、総視聴時間割合(観察時間中に視聴した時間の割合)には相関が認められなかったが、一回の注視時間については最長注視時間や平均注視時間が有意に相関していた。総視聴時間割合も平均注視時間、最長注視時間も、平均値は1歳6ヶ月時の方が8ヶ月時より有意に高かった。
2)1歳6ヶ月時に最長注視時間が長かったA群(5名、431～1208秒)は8ヶ月時も長く(14～25秒)、総視聴時間割合は8ヶ月時にはそれほど多くなかったが1歳6ヶ月時は多かった(84～96%)。他方、注視時間が8ヶ月時のみ長かったB群(5名)の総視聴時間割合は8ヶ月時は多かったが1歳6ヶ月時には多くなかった。
3)撮影時には両月齢時とも両群とも乳幼児番組を視聴しており、両群とも8ヶ月時には移動不可能な状態の児もいたが、1歳6ヶ月時は全員移動可能であった。
4)視聴時は、反応行動も児から同室者への発信頻度も、両月齢時とも全体平均よりB群は少なくA群は更に少なく、A群は特にじっと見ていた。しかし、非視聴時の児からの発信頻度は、両月齢時とも全体平均に比してB群は多くA群は更に多かった。
5)以上の様に、乳児期から、TVをじっと見続けやすい子どもが存在することが示唆されたが、見続け易さと生得的な言語・社会性の遅れ易さとの関連性は考え難い。見続けやすい子どもには特にTVを長時間見せないように留意すべきと考えられる。

P1-026

幼児の電子メディア接触時間が生活習慣に及ぼす影響

甲斐 鈴恵、吉田 幸代

宮崎県立看護大学

【目的】

乳幼児期の電子メディア接触調査から、接触時間の長さが明らかになった¹⁾。さらに幼児について詳しく分析するため、平日の接触時間と生活習慣に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

【方法】

1.対象：A県認定こども園等に通っている子どもの保護者(20園2157世帯)
2.調査期間：2017年9月
3.研究デザイン：B市生活実態調査質問紙を一部改変して作成した質問紙調査。
4.分析方法：基礎調査項目は単純集計し、さらに、接触時間による3分化を行った。1時間未満の短時間接触世帯(以下「短時間世帯」)、1時間以上4時間未満の中間接触世帯(同「中間世帯」)、4時間を超える長時間接触世帯(同「長時間世帯」)。
5.倫理の配慮：所属の研究倫理委員会にて承認を得た。

【結果】

1.対象者：20園、1652世帯から回収(回収率76.6%)。乳幼児年齢構成：0歳 150名、1歳 256名、2歳 274名、3歳 385名、4歳 439名、5歳 459名、6歳 287名、合計2250名。
2.分析結果
1)短時間世帯270(16.6%)、中間世帯893(54.8%)、長時間世帯466(28.6%)。
2)起床時間：「7時前起床」短時間世帯163(60.5%)、中間世帯492(55.1%)、長時間世帯215(46.1%)。
3)就寝時間：「22時以降就寝」短時間世帯50(18.5%)、中間世帯203(22.7%)、長時間世帯154(33.0%)。
4)夕食時にスマホやTVを見ている：「見ている」短時間世帯59(22.4%)、中間世帯420(46.8%)、長時間世帯336(72.1%)。「見ていない」短時間世帯211(77.6%)、中間世帯473(53.2%)、長時間世帯130(27.9%)。
5)テレビを消す習慣：「いつもついている」短時間世帯11(3.9%)、中間世帯80(9.0%)、長時間世帯65(14.0%)。「時々ついている」短時間世帯71(26.2%)、中間世帯296(33.2%)、長時間世帯203(43.6%)。「消している」短時間世帯189(70.0%)、中間世帯516(57.8%)、長時間世帯198(42.4%)。

【考察】

長時間接触に従い、起床・就寝時間が遅くなること、夕食時に電子メディアに接触しているなど、日常の生活習慣と密接に関係していることが明らかになった。一方、接触時間をコントロールできている短時間世帯(1時間未満の使用)をみると、良好な生活習慣が行えている傾向が認められた。

【引用文献】

1) 甲斐鈴恵、吉田幸代(2018)：乳幼児の電子メディア接触時間実態と今後の課題、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報、平成29年度版、13-21。